みんなの広場

▲冷たい雨にも負けず、白い息を吐きながら健脚を競い合った「第13回所沢シティマラソン大会」。
12月1日㈰／西武ドーム

▲クリスマスに先駆けイルミネーション点灯。幻想的な輝きが一段と雰囲気を盛り上げました。
12月8日㈰／所沢駅西口・ロータリー

▲おじいちゃん・おばあちゃんに教わりながら、子どもたちが元気にもちつきをしました。
12月7日㈯／老人福祉センター緑寿荘

▲伝統の味に新しい感覚をプラスし、親しみやすいおせちを作りました。「今風かんたんおせち」。
12月7日㈯／文化会館

街かどズームイン Zoom in

▶皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「太陽」▶正月といえば初日の出▶太陽の輝きは、人を勇気づけ幸せな気分にしてくれます▶時と場合によっては、まぶし過ぎる太陽が邪魔になることもありますけどね▶皆さんの太陽に関する思い出や体験談をお寄せください▶締め切りは1月14日㈫必着▶住所、氏名、年齢、電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木1-1-1所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係

ブタの雪だるま

並木・中妻　時代

童心に返り、夫と2人で大きな雪だるまを作りました。

翌日、雪だるまの様子が気になり、見に行ってみると、なんと、雪で『ブタの鼻と耳』が付けられているではありませんか！

この辺りは、さる高校の通学路です。きっと、高校生に違いありません。そういえば、昨日の夕方、「何、これ～ぅ」とか言って、雪だるまの辺りで茶髪に短いスカートの女の子たちが騒いでいた気がします。

「あの子たち、雪だるまに気が付いたんだね」と夫が言いました。

日ごろ、異星人のように感じられていた彼女たちが、急に近づいたような気がしました。

運転手さん、ありがとう

上山口・鞠谷　きい子

今から3年前の1月のことです。

「新春温泉ツアー」という見出しに、友達4人ですぐに話が決まり、新潟の温泉に行くことにしました。

バスに乗車したときは、天気等は少しも気にしていませんでした。ところが、高速道路を走っているうちに外の景色が雪模様になり、見渡す限り銀世界に。家も畑も区別のつかない白一色になりました。

とうとう高速道路が通行止めになってしまいました。ガイドさんの話では、このままだとバスの中で一宿とか…。

天気予報では、新潟は大雪警報が出ていたのです。私たちはただ困るばかり。運転手さんは、大雪の中を一般道へと走り出しました。

どれくらい走ったのかは分かりませんが、目的地へと必死に走り続け、無事にホテルに着くことができました。

運転手さん、本当にご苦労様でした…ありがとう。

義母

山口・寺林　裕子

「おかしいね。このくらいの雪で交通がマヒしたり、救急車が出動したりして」。義母は、雪のニュースを見てケラケラと笑う。

それもそのはず、47歳まで北海道の旭川で農業をしていた義母は、体で雪を知っている。

関東の寒さもへっちゃら、着膨れて、冬のコキブリのように動作の鈍った私には対照的に、義母の活動範囲はますます広がる。

ところが、今年83歳を迎えたころから「あらら…」が続き、アルツハイマー型痴呆症と診断され、入院した。

それまでは一人暮らしでも健康だったので、公道までも雪かきをしていたが、今年は生涯で初めて雪と対峙しない冬を迎える。

降る雪を見て、何を思うのだろうか…。ちなみに、義母の名前は「雪江」です。

雪女の夜話

北秋津・大島　康子

激しかった戦争も終わり、ゆっくりと夜を過ごし、布団の中で寝られるようになったころ、私は8歳でした。

子どもが多く、貧しかったわが家でしたが、子ども好きな父は、冬になると火鉢を囲みながら、手品や怖い話をしてくれました。

ある雪の夜、父は雪女の話をしてくれました。私をはじめ、姉や弟も身を縮めるようにして話を聞きました。その後、布団に入るのですが、なかなか寝つけなかったことを思い出します。

翌朝目が覚めると、外の雪の白さがガラス戸を通し、部屋の中を明るくしていました。

ふと、掛け布団の上を見ると、ちょうどおなかの辺りに盛り塩でもしたかのように、雪が積もっていました。

「どうしてこんなところに雪が積もったんだろう」。そう思いながら父を呼びました。すると父は「夜話の雪女が入ってきて、雪を置いていったんだろう」と言うので、私はびっくりしました。

あとでよく調べてみると、古い家だったので、窓とさしの間の壁が崩れ、大きな穴が開いていて、そこから風向きによって雪が入ったことが分かりました。

今でも、雪が降ると夜話をしてくれた面白い父を思い出します。

私の血を受け継ぐ

美原町・鈴木　充子

年に何回かの積雪に心躍らせ、親よりも早く起きて大きなシャベルを引っ張り出し、かまくら作りをしていた小学生のころ。

その私の血を受け継いだらしく、子どもたちは汗だくになりながら少ない雪をかき集め、3人がようやく入れるようなかまくらを作りました。その中で、おやつを食べるのが楽しみのようです。

『雪』といえば、忘れられないのが、11年前の出来事。

末娘の出産予定日を3週間後に控えた大雪の日。朝、上の娘を幼稚園の送迎バスの所まで送る途中、「気を付けないと転ぶわよ」と子どものことばかり気にしていて、なんと、私が"ツルリ"。

なんとかふんばって転ぶのは免れたのですが、そのせいで陣痛が始まってしまいました…。

それからというもの、雪が降ると、結構ドジだということを肝に銘じています。

雪・雪・雪…

東町・山本　典子

私が小さかったころは、よく雪が降りました。

3里もある学校の帰り道、大雪が降り積もる中、蛇の目傘に高下駄を履いて歩いたものでした。しばらくすると、高歯に雪が積もるため、裸足になって家に帰ったことを覚えています。

やっとの思いで家に着くと、凍えそうな私の足を母がお湯に浸けてくれました。このとき、母のぬくもりを感じました。

外は大雪、庭一面雪景色、南天の赤い実も、すっかり綿帽子をかぶってしまいました。

夜になると、雪にすっぽり覆われた庭の木や竹は、外灯に照らされ重々しくなり、夜の雪景色にとてもロマンを感じました。

最近は、雪が降ってもあまり積もらないので、こういう雪景色が見られなくて残念です。

大粒の涙

下安松・川北　京

昭和20年3月10日の空襲は、東京の半分を焼土と化した。父の会社が柏崎に疎開することになり、わが家もそれにならった。

水上の辺りから車窓の景色は白一色となり、それはきれいだった。

柏崎駅に着くと横殴りの吹雪で、雪道に慣れない私たちは、やっとの思いで会社の寮にたどり着いた。

その年は例年にない大雪で、道から雪の階段を10段ほど下りて寮の玄関に入った。

「雪の中を大変だったのう」。

寮母さんが優しく迎えてくれた。

そして、出された甘酒のおいしかったこと…。

東京の食糧事情は悪く、甘いものを1年ぶりに口にした。

寮母さんの温かさと甘酒のおいしさ、空襲の恐怖からの解放感で、私はボロボロと大粒の涙を流しながら甘酒をすすった。

女学校1年の春まだ遠い日のことである。

誰でもエッセイ

テーマ "雪"

次回のテーマは「太陽」です

リサイクルふれあい館 不用品ガイド

●譲ります　▽ハイバイプベッド▽レンジ台▽スライド式書棚▽食器洗い器▽ロックミシン（2本糸用）▽介護用手押し車いす

●求めます　▽2段ベッド▽ビデオ付きテレビ▽オートリバース付きカセットデッキ▽電気敷毛布▽小型カラオケセット（CD付きダブルカセット）▽チャイルドカーシート▽幼児用英会話ビデオテープ（幼稚園児向け）▽電子ピアノ▽屋外用物置▽ノートパソコン▽子ども用自転車（14インチ）

受付方法　1月4日㈯から電話による先着順で紹介します。ただし、利用者は所沢市民に限ります。

休館日　月曜日、祝休日、年末年始

申し込み・問い合わせ　リサイクルふれあい館（☎944-0008）

ご覧ください 広報テレビ番組

■テレビ埼玉
所沢リポート
1月1日㈭／①午前9時45分～55分②午後4時40分～50分放映
『市長・新春に語る』

■シティケーブルネット
広報ところざわテレビ情報館
1月16日㈭～／①午後1時55分～2時②午後9時55分～10時放映

はつらつ ところ野老っ子

堀田妃佐さん（喜多町在住）

髪もファッションの一部として見る時代に

洋服をいろいろ着替えて楽しむように、形を変えたり染めてみたり、髪もファッションの一部という時代になりました。今回の野老っ子は、美容師の堀田妃佐さんを紹介します。

堀田さんは、永年に渡り美容業一筋に職業を極め、技能を通じて地域産業の振興と市民生活の向上に大きく貢献したことが評価され、昨年11月25日に技能功労者として、市からの表彰を受けました。

「女性も手に職を持つべし」。家具塗装職人だった父の勧めで美容師の道を志し、日々、技術習得に励み美容師免許を取得しました。常に技術の向上を心がけ、管理美容師をはじめ数々の資格も取得しました。

所沢に店舗を構えて23年。優れた技術もさることながら、コミュニケーションを大切にする人柄は、お客さんからの信頼が厚く、同業者の方からも高い評価を得ています。

「近ごろ流行しているカラーリングは、トーンが明るく出せるようになりましたが、お手入れしだいで髪と頭皮の傷み具合が違ってきます。これからの時代は"頭皮"。髪や頭皮もお肌と同じ！」とこだわりを持つ堀田さんは、ある画期的な技術を取り入れました。

それは、普通の水よりもマイナスイオンを多く含んだ水を使った毛穴洗髪方法です。そのために、1年かけて水の勉強もしました。

「この水は、シャンプー剤を使わなくても汚れ・皮脂がきれいに落ち、髪がサラサラ・ツヤツヤ、頭皮も元気」と美容師のプロの技とアイデアから生まれた技術を教えてくれました。また、この水は飲料水としても活用することができ、環境にも良いそうです。

堀田さんは、時代に求められる技術、個性に合ったスタイル・魅力を引き出す質の高いサロンを目指しています。そして「生涯現役！自分の感性を磨き美容業にまい進していきたい」と今後の抱負を語ってくれました。

カットのようす

Tokorozawa ものしりウォーキング ㉝ 久米・初水天宮とだるま市

久米の水天宮は1月5日が大祭で、毎年多くの人が参拝に訪れます。水天宮は、鳩峰八幡神社に隣接し、昔から安産祈願・家運繁栄・商売繁盛にご利益があるとされ、近隣の人々の信仰を集めてきました。

毎月5日が縁日で、特に1月から5月までは境内で『だるま市』が開かれ、多くの人でにぎわいます。もっとも、昭和初期までは、幸公人の出替わりの時期と関係して、1月よりも3月の縁日の方がにぎわったといいます。

この市で売られるだるまは、『多摩だるま』と呼ばれています。安定感があり、顔が白く、眉と髭の描写が簡素で、目の縁には隈が加えられ、また目の周りに金箔が施されているのが特徴です。

市で出店しているだるま屋は、瑞穂町（東京都西多摩郡）から来ています。現在、多摩だるまを作っている家は瑞穂町に5軒、立川市・あきる野市・青梅市に各1軒の計8軒しかありません。

もともと、多摩・入間地域でだるまが家々に飾られるようになったのは、養蚕と関係していました。かつて養蚕が盛んであったころに、繭玉をだるまの目玉にひっかけて繭がたくさんとれるようにと買っただるまに目玉を入れることで願をかけるという慣習が広まりました。

多摩だるまの起源は、狭山湖の湖底に沈んだ勝楽寺村だといわれています。言い伝えでは、幕末の安政年間に勝楽寺村の"友さん"という人が、悪事がすぎて隣村の三ヶ島堀之内村に所払いとなり、そこでだるまの製作をはじめたところ、その技能が認められ、勝楽寺村へ戻ることを許されて村内に工房を設け製作に専念したというものです。その後、友さんの弟子が技術を伝えて、今日に至ったというわけです。

現在、多摩だるまが売られるだるま市は、初水天宮のほかに、1月3日の喜多院（川越）や拝島大師（昭島）等です。年の始めに縁起を担いで、だるま市に足を運んでみるのもいいかもしれません。

だるま市